

KSKQ

萌風香

2020年度 秋号

誰もが生き活きと
自分らしく暮らせる
心豊かな社会を
創造します。

社会福祉法人萌 広報紙 NO.70 2020.10.23 編集人 社会福祉法人萌 定価 150円

〒630-0256 奈良県生駒市本町7-14 ブルームビル2階 ひだまり内 TEL 0743-85-4196

「住まい」があるのは当たり前？ 居住支援法人の指定からまもなく2年

「一人暮らしをしたいので、家を借りたい」
「退院するので住むところを探したい」
「保証人が亡くなり住み続けられない」
と日々相談を受ける中で、実際に家探しを始めると、
「保証人がないと・・・」
「働いていないから・・・」
「障害のある人には・・・」
と断られます。そんな状況を変えていくための取り組みをしています。

居住支援法人(※参照)の指定を受けたのは2019年1月。住まいに困っている人に対して住まいを確保するための支援、そこで住み続けるために生活の中での困りごとを相談しながら解決していくことなど、個人の状況に応じて支援を行ってきました。

それぞれの支援を通じて、住まいを確保することはやはり難しい。不動産業者が住宅を貸すのをためらう理由がある。行政などは街中にある空き家の活用を考えている。そうした住宅に関する状況が見えてきました。それらの課題を共有するための研修会を2020年1月に開催しました。

また、奈良県には奈良県まちづくり推進局住まいまちづくり課が所管する「奈良県居住支援協議会」があります。奈良県7つの課と市町村、不動産関係団体、居住支援法人などが参加しています。

行政や不動産業者、司法・医療・福祉の専門職などが住まいに関する課題を共有し、協同して解決していこうと、ワーキンググループを立ち上げて活動が始まりました。

様々な立場の人たちとのネットワークを構築し、支援の中で出てきた課題を解決できるしくみづくりをしています。

人が生きていく上で、生活の根幹となる住まい。誰もが望む場所やスタイルで、安心して暮らし続けられる住まいがある。そんな街づくりを行っていきたいと考えています。【6ページに関連記事】

福祉統括部長 山本桂子

※居住支援法人とは、「住宅確保要配慮者に対する賃貸住宅の供給の促進に関する法律(略・住宅セーフティネット法)」に基づき、奈良県が指定した団体で、住宅確保要配慮者の民間賃貸住宅への入居に関する情報提供・相談や見守り等の生活支援などの居住支援を行うものです。

住宅確保要配慮者とは、高齢者、障害者、子育て世帯、災害被害者など住宅の確保に特に配慮を必要とするもの

四徒季然

社会福祉法人萌
理事長 吉川 郁子

精神科の医療機関で、患者への虐待疑いの事例が15年から19年の5年間に72件あったことが厚生労働省の調査で明らかにされました。医療サイドからの通報は49%と半分以上で、実際の被害はもっと多いと想像されます。

閉鎖的な空間や抵抗できない人たちがいるという点では福祉の現場も同じで、虐待事件は後を絶ちません。

虐待の原因は「職員の教育や知識・技術不足」や「ストレス」という調査報告があり、職員個人の問題だけでなく施設側の責任や対応が求められています。

外部の機関による監督機能の強化や法律の整備と併せて、医療や福祉の機関が、地域に開かれた運営や人材育成についてたゆまぬ努力をしていくことが、虐待をなくす第一歩だと思います。

生駒エリア			
生活支援センターコスモールいこま	0743-73-7000	地域活動支援センターコスモールいこま	0743-73-0900
ひだまり	0743-85-4196	コミュニティスペースはなな	0743-73-1050
グループホーム楽都	0743-73-0141		

人とのつながりを届けたい

ピアサポートグループ「ピアスマイルいこま」では、企画していたサロンの開所が新型コロナウイルスの影響でなくなったことから、今年度はピアの電話相談にチャレンジすることに。

どんな準備をしてすすめたらいいのか、わからないことがたくさんです。まずは、ピア電話相談をしている先輩から学ぶことにしました。



先輩の思いに感銘を受けました

8月に大阪の「ぼちぼちクラブ」へ視察、9月には「地域生活支援センターあおぞら」の方を招いての研修会を行いました。視察では、事前に用意した質問ひとつひとつに丁寧に答えてもらい、とても勉強になりました。

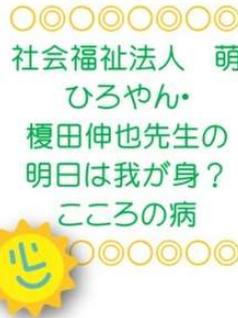
研修会は、電話相談をされているピアスタッフの思いや事業の目的などをロールプレイで実際の場面を学びました。疑問や不安な気持ち全てに丁寧に答えてもらい、ピアサポートの電話相談について深く考える時間になりました。12月には初めての電話相談を計画しています。

自分たちは何を目的に、何を大切にしていけるのか、研修会で学んだことや希望を語り合いながら、準備をすすめていきます。

YouTube デビュー！！

「IKOMAサマーセミナー」が8月9日(日)に開催されました。このセミナーは、2016年度から生駒市生涯学習課と実行委員会が主催し「誰でも先生、誰でも生徒」をコンセプトに、一日限定の学校のようにして様々なテーマで学んでもらえるイベントです。

毎年一コマ「こころの健康も大切に」という



サムネイル用に撮影

講座を担当してメンバーの体験談発表をしています。

今年は新型コロナウイルス感染予防をふまえ、YouTube配信で15講座を実施。3時間目の「こころの病気とつきあってみて」を担当しました。カメラの向こうにいる視聴者にむけて話すのは難しいかも、と事業所で練習。

市役所の会議室での撮影に臨んだ出演者からは「撮影中は緊張のあまり言葉がとんでしまいましたが自分の思いを伝えることができました」と感想。

視聴者からは「堂々と話されていて良かった」「早口ではなく聞きやすかった。体験を踏まえての説明でわかりやすかった」「会場へ聴きに行くのではなく家でいつでも見られるこの形がいいかも」と声が寄せられました。

興味のある方はぜひYouTubeで「IKOMAサマーセミナー」を検索してください。

地域移行・地域定着支援研修会

病院を出て街で暮らしたい

日にち：2020年11月20日(金)

時間：14:00~16:00(13:30開場)

場所：生駒市コミュニティーセンター
(セイセイビル1階文化ホール)

講師：村田 清 氏

(奈良県疾病対策課 精神保健福祉士)

内容：DVD上映・地域移行に関する講演

・当事者による体験発表

参加費：無料(事前申込必要・定員70名)

お問合せ・申込先：コスモールいこま

(Tel: 0743-73-0900)

主催：社会福祉法人萌 生駒エリア

※定員を超えた場合は入場を断ることがありますのでご了承ください。

郡山エリア			
生活支援センターふらっと	0743-54-8112	地域活動支援センターふらっと	0743-54-3977
ふれあい工房	0743-54-6701	彩食キッチンBon	0743-58-5572
グループホームもえぎ館	0743-85-4112		



みんなで手作りして貼りました！

ふらっと 発展途上中！？ ～Everyone Is Wonderful～

地域活動支援センターふらっと(以下ふらっと)では毎週ほっとトーク(ミーティング)を行い、活動全般について話し合っています。

最近のもっばらの議題は、「今後、どんな事業所にしていきたいか?」。メンバーもスタッフも関係なく、ふらっとに対する思いを語る、熱い時間になっています。

「みんなが居心地よく過ごすにはどうすればいいのか」「もう少しお互いを理解する必要があるのでは?」「明るく和気あいあいとした場所にしたい」「あいさつや会釈が自然にできるといいなあ」など、意見は絶えません。

話し合いの中では、これまでの活動について振り返る場面も多くありました。

その中で、創設当時に作られた「Everyone Is Wonderful ～じぶんだいすき すてきなみんな」というコンセプトに着目しました。

当時のメンバーやスタッフに由来を尋ねると、「一人ひとり違った利用目的をもつメンバーが、その存在を尊重し合い、語り、希望を持

てたり、一緒に生きていく仲間と出会える場所として、活動していきたい」という思いが込められているそうです。

良い言葉だな…とみんながしみじみ感じている中で、「毎朝みんなで読み上げては?」という意見がでました。

さすがに毎朝読み上げるのは難しそうなので、サロンのどこからでも見える位置に大きく貼りだすことになりました。

今年で創設18年目。長い歴史の中で様々な良い文化が培われてきました。

今年度は、今一度コンセプトに立ち返りながら、さらにふらっとを良くしていけるよう、話し合いを続けていきたいと考えています。

生活支援センターふらっと 移転のお知らせ



新所在地
〒639-1005 大和郡山市植槻町3-8
大和郡山市社会福祉会館2階

これまでの事務所(植槻町3-4)を出て、西隣にある、大和郡山市社会福祉会館2階へ引っ越しました。

今まで通り、「はあと」・「りんく」・「ふらっと」の3つの支援センターと一緒に活動しています。

電話・FAXの番号は変わりません。

西和エリア

生活支援わが-ほると・ベル	0745-43-5541	地域活動支援わが-まーぶる	0745-75-6545
らそら	0745-70-1577	グループホーム-ム彩友館	0745-43-9333

お弁当でまちとつながる

コロナ禍をきっかけにできた地域の方とのつながりが、らそらのお弁当を通して広がっています。地域の課題に取り組む団体のみなさんと「今できること」を一緒に取り組んでいます。

「お弁当たくさんほしいんだけどできる?」「またお願いね」と地域の方から言ってもらえること。必要な存在だと認めあえること。何よりうれしく思い、お弁当事業をしています。

【子ども応援プロジェクト】



お弁当待ちの長〜い列



お弁当作りも楽しく!

まだ暑かった7月18日。ふらっぴん♪の前にはたくさんの人・人・人…。

この日、100食のお弁当を、らそらのメンバー・スタッフで調理し、配布しました。お弁当待ちの行列ができ、配り終えた後もたくさんの方が「まだありますか?」と来ました。

これは臨時休校により使われなかった給食食材をお弁当にし、子育て家庭に無償で配布する「子どもごはん応援プロジェクト」から依頼を受け行った取り組みです。

【こども食堂へのお弁当お届け】

さて次は9月。「こども食堂いかるが」に、らそらのお弁当40食を届けました。こども食堂いかるがでは、コロナ禍で、みんなが集まり一緒に食べることができないため、持ち帰りのお弁当を配布しています。「たくさんの具材が入っていておいしかった」とのうれしい声を頂きました。



子どもからはうれしいカード

マスクの寄付に感謝!

マスクをつけていることが日常になりつつある今日この頃。

斑鳩町から1000枚のマスクの寄付をいただきました。



ありがとうございます!

当時はマスクの入手が困難だったため、マスクをいただき利用者へ配布することができても助かりました。

利用者から町長へ感謝の気持ちを伝えたいと声があり、お礼の寄せ書きを作成し斑鳩町長へ届けました。町長からは「現場で困っていることや必要なものがあれば声をあげてもらいたい」との言葉がありました。

例年実施している西和ふれあい祭りは中止になりましたが、自治会の福祉会と協力して近隣の住民にお弁当を配布するなどコロナ禍でも地域との繋がりを絶やさないよう取り組んでいきたい想いをお礼に重ねて伝えました。

らそらにカフェスペース!?

らそらのテラスに屋根がつきました。

以前は室外機があるだけのスペースでしたが、机とイスを置いて、秋の心地よい風を感じながらくつろげるカフェテラスのようなスペースになりました。



コーヒーを飲んでくつろげる

また、コロナ感染予防対策で窓が開けやすくなり、雨の日でも安心して過ごせるようになりました。

メンバーからは「外で過ごしやすくなった」「雨の日も外でくつろげる」「洗濯物を外に干せるから乾きやすい」などの声が聞かれました。

高田エリア

生活支援わがなっつ	0745-23-7214	地域活動支援わがなっつ	0745-23-8105
マインドホーム高田	0745-23-8072	おかわり	0745-23-5625
えいぶる	0745-52-5752	あっとほーむ香芝	0745-44-8023

イベントの根底には人とのつながりが
末吉楽器店へインタビュー

毎年2月に大和高田市で開催しているまちフェス。昨年度に引き続き、今年度もコロナウ



まちフェスへの思いを語る末吉さん

イルスの感染拡大の影響により中止が決定しました。

今回はまちフェスがまちにとってどのような存在なのか、第1回まちフェスから協力していただいている末吉楽器店の末吉良輔さんにお話を伺いました。

◆実際に参加してみたいか？

●サービス業として、他の分野の団体と足並みをそろえてイベントができるのは嬉しいですね。障害がある人もいろんなポジションで働いているのを見て、心が純粹だと感じる事があります。まちフェスのステージに出演するミュージシャンの紹介もしていますが、「街中で演奏するよりも聞いていただけたら、こんなに拍手をいただけるのは久しぶり」と喜んでいただいています。

◆まちフェスは萌が実施するというより、まちと一緒にイベントを作っていくことを大切にしてきました。

●末吉楽器店は地域と密着し、協働しながらまちと盛り上げていけたらと考えています。まちフェスに出店することでお客さんにも喜ん

でいただいていますし、そのことがきっかけで興味を持ち、音楽教室に通う人もいらっしやいます。



体験レッスンも実施中！

◆まちフェスを作っていく中で情報交換もしながら共働できたのも印象的でした。

●最近ではイベントやプロモーションビデオの制作の提案もしています。情報発信やイベントなどの手伝いをする事で地域とのつながりを作っていけたらと思っています。

◆まちフェスの目的と一緒にの方向性ですね。ステージの出演者を紹介していただいたことで、私達もつながりが広がりました。

●これからもぜひ使ってほしい(笑)こんな時期だけど、今しかできないこともたくさんあると思います。

◆最後に、今後のまちフェスに期待することを教えてください。

●期待は常にしています。一法人である会場の規模でイベントをするのはとてもパワーのいることだと思います。

収益につながりにくい事業は打ち切られやすいとは思いますが、根底には人とのつながりがある、普及活動になる大切なイベントです。

来てくれた人から「よかったよ」「ありがとう」と言ってもらえると嬉しいですね。やめることは簡単だけど継続することの方が難しい。

お客さんを呼ぶ条件も厳しくなっていくけど、やめないで続けてほしいです。

●末吉さん ◆聞き手(北川、久保田：マインドホーム高田)

檀原エリア			
生活支援センターひあぽ〜と	0744-24-2020	地域活動支援センターひあぽ〜と	0744-24-2070
生活支援センターいろは	0744-32-7753	ひなたき	0744-32-7745
Pitハム	0744-21-5666	グループホーム南	0744-24-2050

「居住支援」の輪に拡がり

奈良市自立支援協議会

「地域移行グループコアメンバー会議」に参加

「居住支援」の輪が他地域でも拡がりを見せています。

萌では精神障がいのある方の「住まい」確保に向け、2019年1月に居住支援法人の指定（檀原市・大和郡山市）を受け、他法人・他業種の支援者や行政との話し合いや「居住支援」に関する啓発活動などを続けてきました。

徐々にではありますが、障害福祉の現場でも「居住支援」という言葉が馴染みはじめ、少なくない人が重要性を認識するようになってきています。

8月20日には、奈良市自立支援協議会地域移行グループから依頼を受け、「萌における居住支援の取組み」を話しました。住まいの課題は「社会的入院の解消」から「高齢精神障害者への支援」「8050問題」まで多岐にわたってつながっています。障害福祉サービスにおける「グループホーム（共同生活援助事業）」という選択肢もありますが、制度・マンパワー・当事者の希望との不一致などの問題もあり、まだまだ不足しています。

賃貸物件を当たり前前に借りることができれば良いですが、「精神障害」に対する偏見も残っており、スムーズに物件を紹介してもらえないこともあります。「グループホームに入居できなければ入院（継続）しかない」という話を聞くこともあります。

居住の課題は、一つの機関・団体で一足飛びに解決することは出来ません。現状を改善するには地道ではありますが各地域で「居住支援」の輪を拡げるためのつながり作りが必須です。

奈良市自立支援協議会という所属や分野を超えた場で「居住」に関する議論が深まることは、奈良県下の「居住支援」の拡がりにおいて大きな力となります。

檀原エリアでも、他地域の勢いに置いて行かれないよう、協力者や話し合いの場を増やしていく活動に力を入れていきます。

レストラン咲咲でほっと一息

～ 久しぶりの外食♪ ～

コロナ禍で、なかなか外食が、難しい日々が続いた夏のあるミーティング、「そろそろ近隣で外食がしたいなー」という声がちらほら聞こえて・・・。

食べることが大好きなひあぽ〜とは、安心して外食できるところを考え、同じ法人事業所の大和高田にあるレストラン咲咲に行くことにしました！

事前に、サロンでメニュー表を見ながら、「とんかつカレーおいしそうやなあ」「ハンバーグやミックフライもええなあ」「食後はスイーツも食べたいなあ」「早く行きたいなあ」みんなのつぶやきだけで、もうお腹がすいてきます。

7月～9月にかけて計4回、数人に分けて密にならないように車に乗っていきました。

到着すると、すぐに咲咲の皆さんが「お待ちしていました！」と笑顔で迎えてくれました。

久しぶりの外食に歓喜のメンバーもいたり、美味しいご飯に笑顔がいっぱいこぼれました。

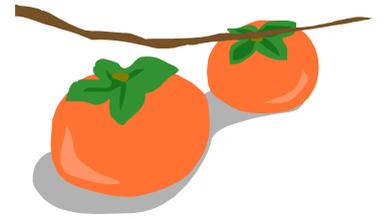
「外で食べるご飯はいいなー」「また、違うメニュー食べたいわ」と帰り道の車の中で、話がワイワイはずみます。

生活スタイルに変化はあっても、工夫をしながらみんなでほっと一息つける時間を見つけたいと思います。



美味しさと喜びかみしめて

秋の投稿コーナー



今回のテーマは「精神科・事業所あるある川柳」
ご投稿いただいたみなさん。ありがとうございます。

面会に いつ来るかなあ お母さん

辰巳 明

風呂入る 話しかけると おこられる

機谷 吏(はたやん)

統合失調症

わかる人にはわかる 辛い病気

なべちゃん

作業所で まかない食べ食べ 若がえる

マーボー

朝礼の 司会と書記が決まってる

激ヤバTシャツ露天商

祖母の手が クリまんじゅうを 握ったら

思い出一つ こぼるる小豆(あずき)

柘田 尚彦

待ち時間 ウトウトしてたら 呼ばれてる

ゆきっち

しんどいよ そのひとことが 助けの輪

アラシツク

コロナにも 打ち勝ちますよ 西和もね

たっちゃん

ボンしごと

きょうもくたくた がんばるぞ

加古 義弘

らそらの場 みんな仲良く にぎやかに

だいちゃん

まるでコロナ禍の如し

ひきこもりを二十四年

池村 修司

看護師の 愛さえあれば

入院生活

楽園であり
榎田 伸也

ライク通信

なら西和就業・生活支援センターライク 0743-85-7702

さくらんぼ便り

ホームヘルプステーションさくらんぼ 0743-54-0800

医療機関との連携強化

～ジョブガイダンス事業への協力を通じて～

ハローワーク奈良主催のジョブガイダンスに講師として参加しました。

ジョブガイダンスとは、精神障害のある方の就労支援を目的に、ハローワークが医療機関等に赴いて、利用者・職員双方に就労活動に役立つ知識や取り組みについて説明する事業です。

この日は天理よろづ相談所病院 白川分院を訪問し、障害者就労・生活支援センターの役割の説明と就職された方の事例紹介を行いました。

精神障害がある方を支援する上で医療機関との連携は欠かせません。

ジョブガイダンスへの協力を通じて、今後も顔の見える関係づくりに取り組んでいきます。

千里か万里か、それは人それぞれ

「ヘルパーが毎週来ているのに、部屋が片付かないのはどうして!？」

離れて暮らす親御さんや、訪問看護師から聞くことがあります。福祉サービスとはいえ、他人が自分の家に来て、私物を触ったり移動したりするわけですから、相当なストレスを感じられて当然です。

ご本人の部屋にあるものは、それが丸めてゴミ箱の近くに落ちているレシートであったとしても、ひとつひとつ確認しながら取捨選択をしています。物の位置を変えるのも、ご本人が納得された上で作業を進めていくことを大事にしています。

時間がかかりますが、笑ったり迷ったり、会話しながら回数を重ねていき、安心してサービスを受けてもらうことが出来てこそ、環境を整えられると信じて。千里の道も一歩から。



★萌風香の購読★

萌風香は年4回1500部ずつの発行です。皆様のお手元に届いた後、萌の事業所利用者以外の方で「引越して住所が変わった(住所変更)」「次からは送ってもらわなくても結構です(購読中止)」という場合、お手数ですが必ず編集部ひだまり(0743-85-4196)までご一報くださいますようよろしくお願いします。

▽萌 後援会からのご案内

萌後援会は「社会福祉法人萌」の活動を支援していただける皆様を募集しております。

主な目的は萌フェスタをはじめとした事業の支援や寄付を行なっています。

会費の納入及び寄付の受付口座は郵便振替 社会福祉法人萌後援会

00920-4-221824

後援会事務局(萌総務部内)

0743-54-0821 (大東)

▽ハートフルこおりやま 精神障害者の社会参加をすすめる会

「障がいのあるなしに関わらず、誰もが住みやすい街づくり」をすすめる当会では、会の趣旨に賛同頂き、活動に協力して下さる会員さん・ボランティアさんを大募集しています!!年会費は1口500円(2口からお願いします)です。

連絡先:会事務局 ふらっと内 0743-54-3977 (桑原)

▽生駒精神障がい者後援会 ひだまりクローバー

生駒市の施設を利用する精神障害者への財政的支援(交通費など)と、啓発活動(トーク&ライブひだまり、こころの市民講座など)をしています。

年会費 一口2000円から。

新規会員募集中!

連絡先:コミュニティスペースはなな内 0743-73-1050 (佐藤)

新型コロナウイルスの影響で、各例会の開催が中止・延期など変更されています。詳しくは、下記の各団体・お問い合わせ先にご確認ください。

家族会の情報

詳細は まほろば会(NPO 奈良県精神障害者家族会連合会)

TEL:090-9213-2731 FAX:0742-51-5506 https://nijironokaze.jimdo.com/

Table with 6 columns: 名称, 月例会, 時間, 場所, 問い合わせ先, 電話番号. Rows include さくら会, ひだまり会, 西和家族会, すみれ会, のぞみ会.